

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	日	先負	元日、修正会、初詣、年賀	旧十二月	つちのと
二日	月	仏滅	休日、初夢、初荷、書初め、皇居一般参賀	十一日	かのえ
三日	火	大安		十二日	かのと
四日	水	赤口	官庁御用始め、取引所大発会	十三日	みつね
五日	木	先勝	初水天宮、初亥	十四日	みつのと
六日	金	友引	小寒〇時五分、六日年越し、東京消防出初式初子	十五日	きのえ
七日	土	先負	望〇時〇八分、七草（人日の節句）	十六日	きのと
八日	日	仏滅	初薬師、初寅	十七日	ひのえ
九日	月	大安	成人の日、宵えびす、京都西本願寺御正忌報恩講初卯	十八日	ひのと
十日	火	赤口	初金比羅、十日えびす	十九日	つちのえ
十一日	水	先勝	鏡開き、歳開き、初巳	廿日	つちのと
十二日	木	友引		廿一日	かのえ
十三日	金	先負		廿二日	かのと
十四日	土	仏滅	十四日年越し、大阪四天王寺修正会	廿三日	みつね
十五日	日	大安	下弦〇時一分、小正月、小豆がゆ	廿四日	みつのと
十六日	月	赤口	やぶいり、えんま詣	廿五日	きのえ
十七日	火	先勝	土用一八時、阪神淡路大震災（一九九五年）	廿六日	きのと
十八日	水	友引	初観音	廿七日	ひのえ
十九日	木	先負		廿八日	ひのと
廿一日	土	大安	初大師	廿九日	つちのえ
廿二日	日	先勝	朔五時五分、臘日、旧元日	旧正月	つちのと
廿三日	月	友引		二日	かのと
廿四日	火	先負	初愛宕、初地藏	三日	みつね
廿五日	水	仏滅	法然上人御忌（ご命日・二二二年） 世界平和念仏の日、初天神	四日	みつのと
廿六日	木	大安	文化財防火デー	五日	きのえ
廿七日	金	赤口	国旗制定記念日	六日	きのと
廿八日	土	先勝	初不動、奈良山焼、旧七草	七日	とり
廿九日	日	友引	上弦〇時一分	八日	ひのえ
卅日	月	先負		九日	ひのと
卅一日	火	仏滅		十日	つちのえ

{ あいさつ }

- 初春の候
- 厳冬の候
- 寒梅新春の候



YouTube
浄土宗公式チャンネル

総大本山の御忌法等の動画を公開しています！
ぜひ足をお運びください。
(P50-54に掲載)



◆ 1月25日 御忌会

建暦2年（1212）、80歳で往生された法然上人のご命日に、ご遺訓の「一枚起請文」を声高らかに拝読する御忌会が営まれます。もともと「御忌」は、天皇皇后のご命日でしたが、徳の高さを称えられ、室町時代に法然上人の忌日を「御忌」と呼ぶことが許されました。
今日では1月25日のご命日法要に加え、春に盛大な法要を行うところが多くなっています。

1月

むつき
{ 睦月 }
(大)



日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	水	大安		旧正月 十一日	かのえ とら
二日	木	赤口		十二日	かのと
三日	金	先勝	節分、節分祭、追儺式 草	十三日	みつのと
四日	土	友引	立春 <small>一時</small> 、さつぼろ雪まつり <small>四三分</small> （十一日迄）	十四日	みつのと
五日	日	先負	初午、旧小正月	十五日	きのえ うま
六日	月	仏滅	望 <small>三時</small> 二九分	十六日	きのと
七日	火	大安	北方領土の日	十七日	ひのえ
八日	水	赤口	こと始め、針供養	十八日	ひのと
九日	木	先勝		十九日	つちのえ いぬ
十日	金	友引	旧二十日正月	廿日	つちのと
十一日	土	先負	建国記念の日	廿一日	かのえ ね
十二日	日	仏滅		廿二日	かのと
十三日	月	大安		廿三日	みつのと
十四日	火	赤口	下弦 <small>一時</small> 〇一分	廿四日	みつのと
十五日	水	先勝	涅槃会、横手かまくら	廿五日	きのえ たつ
十六日	木	友引		廿六日	きのと
十七日	金	先負	二の午、八戸えんぶり（二十日迄）	廿七日	ひのえ うま
十八日	土	仏滅	岡山西大寺裸祭	廿八日	ひのと
十九日	日	大安	雨水 <small>七時</small> 三四分	廿九日	つちのえ さる
廿日	月	友引	朔 <small>一六時</small> 〇六分	旧二月 一日	つちのと
廿一日	火	先負	二日灸	二日	かのえ いぬ
廿二日	水	仏滅		三日	かのと
廿三日	木	大安	天皇御誕生日	四日	みつのと
廿四日	金	赤口	奈良當麻寺奥院御忌大法要・法然上人像ご開帳	五日	みつのと
廿五日	土	先勝	世界平和念仏の日	六日	きのえ とら
廿六日	日	友引		七日	きのと
廿七日	月	先負	上弦 <small>一七時</small> 〇六分	八日	ひのえ たつ
廿八日	火	仏滅	鎮西忌（浄土宗第二祖聖光上人ご命日）	九日	ひのと

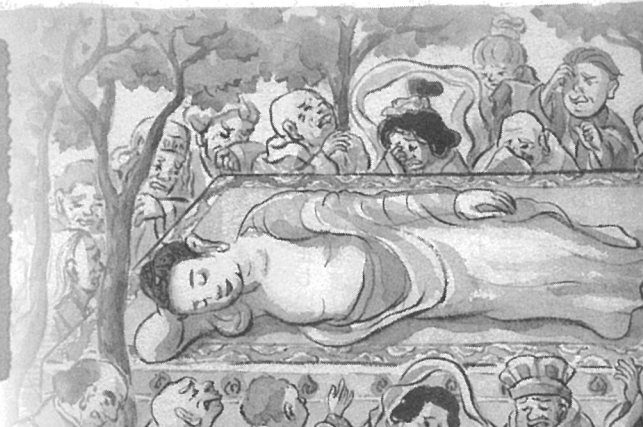
令和四年
歌会始御歌
（恋）

◆ 御製…世界との往き来難かる世はつき窓開く日を偏に願ふ
◆ 皇后陛下御歌…新しき住まひとなるる吹上の窓から望む大樹のみどり

令和五年
歌会始御歌
（友）

{ あいさつ }

● 立春の候
● 残寒の候
● 三寒四温と
言われるこの季節



◆ 2月15日 涅槃会
約2500年前、お釈迦さまが沙羅双樹の下、80歳で生涯を閉じられた（入滅された）と伝えられる日です。涅槃とは「煩惱の炎が消えた状態」を意味することから、完全に煩惱から離れ、悟りに入られたお釈迦さまを讃え、その命日と法要を涅槃会と言うようになりました。宗派を問わず各寺院では涅槃図を掲げ報恩追慕の法要を勤めます。

2月

きさらぎ
{ 如月 }
(平)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	水	大安	春の全国大災予防運動（七日迄）、旧初午	旧二月十日	つちのえ うま
二日	木	赤口		十一日	つちのと ひつし
三日	金	先勝	ひな祭（上巳の節句）、耳の日	十二日	かのえ さる
四日	土	友引		十三日	かのと とり
五日	日	先負		十四日	みつのえ いぬ
六日	月	仏滅	啓蟄 五時 三六分	十五日	みつのと む
七日	火	大安	望 二一時、消防記念日 四〇分	十六日	きのえ ね
八日	水	赤口	国際女性デー	十七日	うしと きのと
九日	木	先勝		十八日	ひのえ とら
十日	金	友引		十九日	うしと う
十一日	土	先負	東日本大震災（二〇一一年）	廿日	つちのえ たつ
十二日	日	仏滅	奈良東大寺二月堂お水取り	廿一日	みつちのと み
十三日	月	大安	春日祭、旧二の午	廿二日	かのえ うま
十四日	火	赤口	善導忌（浄土宗高祖善導大師ご命日）	廿三日	かのと ひつし
十五日	水	先勝	下弦 〇八分 〇八分 京都清凉寺お松明式	廿四日	みつのえ さる
十六日	木	友引		廿五日	みつのと とり
十七日	金	先負		廿六日	きのえ いぬ
十八日	土	仏滅		廿七日	きのと む
十九日	日	大安		廿八日	ひのえ ね
廿日	月	赤口		廿九日	うしと ひのと
廿一日	火	先勝	春分の日、春分 六時、社日 彼岸中日	卅日	つちのえ とら
廿二日	水	友引	朔 二時、NHK放送記念日 二三分	朔四日	つちのと う
廿三日	木	先負	世界気象デー	二日	かのえ たつ
廿四日	金	仏滅	彼岸結願	三日	かのと み
廿五日	土	大安	世界平和念仏の日、電気記念日	四日	みつのと うま
廿六日	日	赤口	香川法然寺涅槃会	五日	みつのと ひつし
廿七日	月	先勝	表千家利休忌	六日	きのえ さる
廿八日	火	友引	裏千家利休忌	七日	きのと とり
廿九日	水	先負	上弦 〇八分 〇八分	八日	ひのえ いぬ
卅日	木	仏滅		九日	ひのと む
卅一日	金	大安		十日	つちのえ ね

3月

やよい
【弥生】
(大)

◆ 彼岸会

春分と秋分を中日とした一週間を彼岸といいます。
「六波羅蜜（六つの正しい行い）」を実践し、煩惱の川を渡り、極楽浄土へ生まれかわりたいと願う信仰実践の期間とされています。
中国の善導大師は、太陽が真東から出て真西に沈む春分・秋分の日には、「日想観」を行い、その日没の場所を極楽浄土と見てあこがれの心を起こすべきである、とお説きになっています。

{ あいさつ }

- 早春の候
- 春分の候
- 桃の花香る頃



二十日 金環皆既日食(東南アジアなど)。日本では南西諸島・九州地方南部・四国地方南部・近畿地方南部から関東地方南部にかけての地域・伊豆諸島・小笠原諸島で部分食。

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	土	赤口	学年始め 大坂一心寺界隈下寺町なわ人形芝居フエスティバル 長野西方寺跡の踊り念仏	旧暦四月初十日	つちのとうし
二日	日	先勝		十一日	かのえとら
三日	月	友引		十二日	かのと
四日	火	先負		十三日	かのと
五日	水	仏滅	清明 一〇時 一三時	十四日	みつのおと
六日	木	大安	望 一三時 一五時	十五日	みつのおと
七日	金	赤口	法然上人お誕生百(二三年)、世界保健デー	十六日	きのえうま
八日	土	先勝	灌仏会(花まつり)	十七日	きのと
九日	日	友引		十八日	ひのえさる
十日	月	先負		十九日	ひのと
十一日	火	仏滅	メートル法公布記念日	二十日	つちのえ
十二日	水	大安	世界宇宙飛行の日	廿一日	つちのと
十三日	木	赤口	下弦 一八時 一分 京都法輪寺十三まいり	廿二日	かのえ
十四日	金	先勝	奈良富麻寺聖衆来迎練供養会式 熊本地震(二〇一六年)	廿三日	うし
十五日	土	友引		廿四日	みつのおと
十六日	日	先負	岡誕生寺会式法要(法然上人ご両親ご追慰会)	廿五日	つちのえ
十七日	月	仏滅	土用 一五時 三六分	廿六日	きのえ
十八日	火	大安	発明の日	廿七日	きのと
十九日	水	赤口		廿八日	ひのえうま
廿日	木	先負	朔 一三時、教雨 一七時、郵政記念日 二分 四分 郵便週間	廿九日	ひつし
廿一日	金	仏滅		三十日	つちのえ
廿二日	土	大安	旧ひな祭	三十一日	つちのと
廿三日	日	赤口		一月一日	かのえ
廿四日	月	先勝		一月二日	かのと
廿五日	火	友引	世界平和念仏の日	一月三日	かのと
廿六日	水	先負		一月四日	かのと
廿七日	木	仏滅	和歌山道成寺鐘供養	一月五日	かのと
廿八日	金	大安	上弦 六時 二分	一月六日	かのと
廿九日	土	赤口	昭和の日	一月七日	かのと
卅日	日	先勝		一月八日	かのと

{ あいさつ }

- 春暖の候
- 晩春の候
- 桜花爛漫の候



灌仏会
(WEBサイト)

浄土宗の公式ホームページでは花まつりについて詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。



この故事になぞらえて、色とりどりの花を美しく飾った花御堂に、天と地を指す誕生仏をまつり、甘茶をかけて誕生を祝う行事が行なわれています。

お釈迦さまが、ルンビニーの花園でお生まれになった日です。生まれてすぐに、7歩進んで右手で天を指し左手で地を指して「天上天下唯我独尊」と言われ、龍王が甘露の雨を降らせて祝福したと伝えられています。

◆ 4月8日 灌仏会(花まつり)



日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	月	友引	メーデー(労働祭)	旧三月十二日	つちのとひつし
二日	火	先負	八十八夜	十三日	かのえさる
三日	水	仏滅	●憲法記念日 <small>博多どんたく 浜松まつり(五日迄)</small>	十四日	かのとり
四日	木	大安	●みどりの日	十五日	みつのおいぬ
五日	金	赤口	●こどもの日、端午の節句	十六日	みつのとあ
六日	土	先勝	○望 <small>二時</small> 、立夏 <small>三時</small> 三四分、立夏 <small>三時</small> 一九分	十七日	きのえ
七日	日	友引		十八日	きのとり
八日	月	先負	世界赤十字デー	十九日	ひのえ
九日	火	仏滅		廿日	ひのと
十日	水	大安	愛鳥週間(十六日迄)	廿一日	つちのえ
十一日	木	赤口	長良川鶴飼開き	廿二日	つちのと
十二日	金	先勝	●下弦 <small>二時</small> 、看護の日、海上保安の日 <small>二八分</small>	廿三日	かのえ
十三日	土	友引		廿四日	うま
十四日	日	先負	母の日	廿五日	みつのおさる
十五日	月	仏滅	京都葵祭	廿六日	みつのと
十六日	火	大安		廿七日	きのえ
十七日	水	赤口	東京神田祭	廿八日	きのと
十八日	木	先勝		廿九日	ひのえ
十九日	金	友引	奈良唐招提寺うちわまき	卅日	ひのと
廿日	土	仏滅	朔 <small>〇時</small> 五三分	朔日	つちのえ
廿一日	日	大安	小満 <small>一六時</small> 〇九分	旧四月二日	つちのと
廿二日	月	赤口		三日	かのえ
廿三日	火	先勝		四日	かのと
廿四日	水	友引		五日	みつのおうま
廿五日	木	先負	世界平和念仏の日	六日	みつのおひつし
廿六日	金	仏滅		七日	きのえ
廿七日	土	大安	旧灌仏	八日	きのとり
廿八日	日	赤口	上弦 <small>〇時</small> 二二分	九日	ひのえ
廿九日	月	先勝		十日	ひのと
卅日	火	友引	消費者の日	十一日	つちのえ
卅一日	水	先負	世界禁煙デー	十二日	つちのと

{ あいさつ }

- 立夏の候
- 軽暑の候
- 薫風の候
- 若葉の頃となりました



◆ 帰敬式・授戒会・五重相伝
 帰敬式とは、仏さま(仏)、仏さまの教え(法)、仏教を信じる人たち(僧)に帰依して仏教徒となることを表明する儀式のことです。授戒会は、仏教徒として守るべき約束ごと(戒)を授かり、戒に従って生きていくことを誓う儀式をさします。五重相伝では、浄土宗の教えをいただくものとして、法然上人の教えを五つの段階に分け、通常5日間をかけて学ぶことで念仏信仰を深めていきます。

5月

{ 皐月 }
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	木	仏滅	気象記念日、写真の日 電波の日、相模川他鮎解禁 横浜開港記念日	旧四月十三日	かのえとら
二日	金	大安	測量の日	十四日	かのと
三日	土	赤口	世界環境デー	十五日	みつとえ
四日	日	先勝	望 <small>一、二時</small> 、歯と口の健康週間 <small>（十日迄）</small> 芒種 <small>七時</small> 、一八分	十六日	みつと
五日	月	友引	時の記念日	十七日	きのえ
六日	火	先負	下弦 <small>四時</small> 、入梅 <small>一、二時</small> 下弦 <small>三、二分</small> 、入梅 <small>四、六分</small>	十八日	ひのえ
七日	水	仏滅	東京山王祭	十九日	さる
八日	木	大安	柏崎えんま市 <small>（十六日迄）</small>	廿日	ひのと
九日	金	赤口		廿一日	つちのえ
十日	土	先勝		廿二日	いぬ
十一日	日	友引		廿三日	つちのと
十二日	月	先負		廿四日	かのと
十三日	火	仏滅		廿五日	みつと
十四日	水	大安		廿六日	つちのえ
十五日	木	赤口		廿七日	きのえ
十六日	金	先勝		廿八日	みさと
十七日	土	友引		廿九日	ひのえ
十八日	日	大安	朔 <small>一、三時</small> 、父の日 朔 <small>三、七分</small>	旧五月朔日	ひのと
十九日	月	赤口	京都鞍馬寺竹伐り会式	二日	つちのえ
廿一日	火	先勝	夏至 <small>二、三時</small> 五、八分	三日	つちのと
廿二日	水	友引	旧端午	四日	かのえ
廿三日	木	先負	沖繩慰霊の日	五日	いぬ
廿四日	金	仏滅		六日	かのと
廿五日	土	大安	世界平和念仏の日	七日	みつと
廿六日	日	赤口	上弦 <small>一、六時</small> 五、〇分	八日	きのと
廿七日	月	先勝	貿易記念日	九日	きのと
廿八日	火	友引		十日	う
廿九日	水	先負		十一日	ひのえ
卅日	木	仏滅	大はらへ、夏越祭	十二日	み
	金	大安		十三日	つちのえ

{ あいさつ }

- 入梅の候
- 初夏の候
- 梅雨の候
- 紫陽花の花も美しく



仏 式 結 婚 式
(WEBサイト)

総本山知恩院をはじめ、多くの寺院で挙式を行えます。阿弥陀さまとご先祖さまに見守られながらお誓いします。



◆ 仏式結婚

浄土宗では、夫婦の誓いとともに仏さまへ花を供養する「行華あんげ」を行います。これは、お釈迦さまの前世の物語に由来しています。青年・雲童子えんどうじは仏さまに捧げたいと花を探していましたが、国王が国中の花を探った後で見つけられません。そのとき7本の花を持つ少女・賢者に出会います。2人は花を分け合い、仏さまに捧げました。後に2人は夫婦となり、幸せな人生を送りました。

6月

みなづき

{ 水無月 }
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	土	赤口	全国各地海山開き、富士山開き 国民安全の日、全国安全週間（七日迄） 半夏生（一、二時） 三六分	旧五月 十四日	かのえ さる
二日	日	先勝	米国独立記念日	十五日	かのと とり
三日	月	友引	望（二〇時） 三九分	十六日	みつえ いぬ
四日	火	先負	米国独立記念日	十七日	みつのと あつと
五日	水	仏滅		十八日	きのえ ね
六日	木	大安	記主忌（浄土宗第三祖良忠上人ご命日） 小暑（一七時） 三一分	十九日	きのと うし
七日	金	赤口	浅草ほおずき市（十日迄）	廿一日	ひのと う
八日	土	先勝		廿二日	つちのえ たつち
九日	日	友引		廿三日	つちのと み
十日	月	先負	下弦（一〇時） 四八分	廿四日	かのえ か
十一日	火	仏滅		廿五日	かのと ひつし
十二日	水	大安		廿六日	みつえ さる
十三日	木	赤口	迎え火	廿七日	みつのと とり
十四日	金	先勝	送り火（十六日に行う地方もあり）	廿八日	きのえ いぬ
十五日	土	友引		廿九日	きのと あ
十六日	日	先負	やぶいり、えんま詣	卅日	ひのえ ね
十七日	月	仏滅	海の日、京都祇園祭（山鉾巡行）	旧六月 朔日	ひのと うし
十八日	火	赤口	朔（三時） 三二分	二日	つちのえ とら
十九日	水	先勝		三日	つちのと う
廿一日	金	先負	土用（七時） 二六分	四日	かのと たつ
廿二日	土	仏滅		五日	かのと み
廿三日	日	大安	大暑（一〇時） 五〇分	六日	みつえ うま
廿四日	月	赤口	地藏盆	七日	みつのと ひつし
廿五日	火	先勝	世界平和念仏の日、大阪天神祭	八日	きのえ さる
廿六日	水	友引	上弦（七時） 〇七分	九日	きのと とり
廿七日	木	先負		十日	ひのえ いぬ
廿八日	金	仏滅		十一日	ひのと あ
廿九日	土	大安	香川法然寺虫干会（三十日迄）	十二日	つちのえ ね
卅日	日	赤口	土用の丑	十三日	つちのと うし
卅一日	月	先勝	芦ノ湖湖水祭	十四日	かのえ とら

{ あいさつ }

- 仲夏の候
- 酷暑の候
- 盛夏の候
- 暑さ厳しいおりから



◆ 施餓鬼会

施餓鬼会は、「救拔焰口餓鬼陀羅尼經」に、お釈迦さまの弟子の阿難尊者が、餓鬼から「3日後に死に、餓鬼の世界に生まれる」と言われ、お釈迦さまから「助かりたいなら餓鬼に施しと供養をしなさい」と供養の作法を授かったと説かれており、これにもとづいています。
次第に先祖供養の意味も付加されて今日に至っています。

7月

{ 文月 }
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	火	友引	水の週間(七日迄)、八朔 弘前ねぶた祭(七日迄)	旧六月十五日	うかのと
二日	水	先負○	望三時、青森ねぶた祭(七日迄)	十六日	みつたつ
三日	木	仏滅	秋田竿燈まつり(六日迄)	十七日	みつのと
四日	金	大安	熊本火の国まつり	十八日	きのえ
五日	土	赤口	宮城西方寺定義如来夏まつり	十九日	きのと
六日	日	先勝	広島原爆の日、仙台七夕(八日迄)	廿日	ひのえ
七日	月	友引	鼻の日	廿一日	ひのと
八日	火	先負●	下弦一九時、立秋三時 二八分、立秋二三分	廿二日	つちのえ
九日	水	仏滅	長崎原爆の日、宝塚中山寺星下り	廿三日	つちのと
十日	木	大安		廿四日	かのえ
十一日	金	赤口	山の日	廿五日	かのと
十二日	土	先勝		廿六日	みつのえ
十三日	日	友引	迎え火	廿七日	みつのと
十四日	月	先負		廿八日	きのえ
十五日	火	仏滅	送り火(十六日に行う地方もあり) 戦没者追悼・平和祈念の日	廿九日	きのと
十六日	水	先勝●	朔一八時、京都五山送り火、箱根強羅大文字焼き 三八分	旧七月二日	ひのえ
十七日	木	友引		三日	ひつし
十八日	金	先負		四日	つちのえ
十九日	土	仏滅		五日	つちのと
廿日	日	大安		六日	かのと
廿一日	月	赤口		七日	みつのえ
廿二日	火	先勝	旧七夕	八日	みつのと
廿三日	水	友引	処暑一八時 〇一分	九日	うし
廿四日	木	先負●	上弦一八時、京都地蔵盆 五七分	十日	きのえ
廿五日	金	仏滅	世界平和念仏の日	十一日	きのと
廿六日	土	大安	京都念仏寺千灯供養(二十七日迄)	十二日	ひのえ
廿七日	日	赤口		十三日	み
廿八日	月	先勝		十四日	つちのえ
廿九日	火	友引	文化財保護法施行記念日	十五日	つちのと
卅日	水	先負	旧盆	十六日	かのと
卅一日	木	仏滅	望一〇時 三六分	十七日	かのと

{ あいさつ }

- 晩夏の候
- 残暑の候
- 降るような蝉しぐれ



◆ 盂蘭盆会

「ウランバナ」の音訳で、お釈迦さまの弟子の目連尊者が、お釈迦さまの教えに従い、餓鬼道に落ちた亡き母を救ったとかかれている「盂蘭盆経」による行事です。日本では、祖先崇拜と結びつき全国的に広がっています。お盆には精霊棚を飾ってご先祖をお迎えし、和尚さまに回向していただき、菩提寺へ行き、お墓参りをして、ご先祖を心からご供養しましょう。

8月

{ 葉月 }
(大)



日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	金	大安	二百十日、防災の日 関東大震災（一九三三年）	旧七月	みづのえ
二日	土	赤口	文相賀立木観音千日会	十八日	みづのと
三日	日	先勝		十九日	きのえ
四日	月	友引		廿日	きのと
五日	火	先負	滋賀立木観音千日会（二十三日迄）	廿一日	ひのえ
六日	水	仏滅		廿二日	ひのと
七日	木	大安	下弦 七時 二二分 文相賀立木観音千日会	廿三日	うらみ
八日	金	赤口	白露 六時 二七分 旧地藏盆	廿四日	つちのと
九日	土	先勝	救急の日、重陽の節句	廿五日	かみ
十日	日	友引		廿六日	かのと
十一日	月	先負	二百二十日	廿七日	みづのえ
十二日	火	仏滅	水路記念日	廿八日	さる
十三日	水	大安	世界の法の日	廿九日	みづのと
十四日	木	赤口		卅日	きのえ
十五日	金	友引	朔 一〇時 四〇分 旧八朔、石清水祭	旧八月 朔日	ひのえ
十六日	土	先負	二日灸	二日	ひのと
十七日	日	仏滅		三日	つちのえ
十八日	月	大安	敬老の日	四日	つちのと
十九日	火	赤口	子規忌	五日	かみ
廿日	水	先勝	空の日 動物愛護週間（二十六日迄）	六日	かのと
廿一日	木	友引		七日	みづのえ
廿二日	金	先負		八日	みづのと
廿三日	土	仏滅	秋分の日 上弦四時三二分 秋分一五時五〇分	九日	きのえ
廿四日	日	大安	結核予防週間（三十日迄）	十日	さる
廿五日	月	赤口	世界平和念仏の日	十一日	ひのえ
廿六日	火	先勝		十二日	ひのと
廿七日	水	友引	社日	十三日	うらみ
廿八日	木	先負		十四日	つちのと
廿九日	金	仏滅	望 一八時 五八分、十五夜	十五日	かみ
卅日	土	大安		十六日	かのと



{ あいさつ }

- 初秋の候
- 秋分の候
- 秋涼の候
- 朝夕日毎に涼しくなり

◆ お墓参り

- ① お墓に着いたら墓石の周囲を掃き清めます。水鉢、花立て、線香台、そして墓石をきれいに洗います。
- ② 墓石に打ち水をして、水を入れた花立てに花を、お供物は半紙などを敷いて供えます。水鉢にも水を入れましょう。
- ③ 順番にお線香をあげ、合掌し十遍のお念仏をとなえてお参ります。
- ④ 花以外のお供物はお参りがすんだら持ち帰りましょう。

9月

ながつき
{ 長月 }
(小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	日	赤口	共同募金、法の日 全国労働衛生週間（七日迄）	旧八月十七日	みつのえ
二日	月	先勝		十八日	みつのと
三日	火	友引		十九日	きのえ
四日	水	先負		廿日	うま
五日	木	仏滅		廿一日	さる
六日	金	大安	下弦 二二時 四八分	廿二日	ひのと
七日	土	赤口	寒露 二二時 一六分、亥の子餅	廿三日	つちのえ
八日	日	先勝		廿四日	いぬ
九日	月	友引	スポーツの日	廿五日	つちのと
十日	火	先負		廿六日	かのと
十一日	水	仏滅		廿七日	うし
十二日	木	大安	芭蕉忌	廿八日	みつのと
十三日	金	赤口		廿九日	うま
十四日	土	先勝	鉄道の日	卅日	さる
十五日	日	先負	朔 二時 五五分、北海道地区一部で七五三	朔 旧九月一日	みつのえ
十六日	月	仏滅		二日	ひのと
十七日	火	大安		三日	つちのえ
十八日	水	赤口		四日	つちのと
十九日	木	先勝	日本橋べつたら市	五日	かのと
廿一日	金	友引	えびす講、誓文弘	六日	いぬ
廿二日	日	仏滅	土用 〇時 五八分、上弦 一二時 二九分、京都時代祭	七日	かのと
廿三日	月	大安	霜降 一時 二分、国連の日	八日	みつのと
廿四日	火	赤口	世界平和念仏の日	九日	うし
廿五日	水	先勝		十日	つちのえ
廿六日	木	友引	原子力の日	十一日	さる
廿七日	金	先負	読書週間（十一月九日迄）、十三夜	十二日	ひのと
廿八日	土	仏滅		十三日	つちのえ
廿九日	日	大安		十四日	うま
卅一日	火	先勝		十五日	さる
卅二日	水	赤口		十六日	かのと
卅三日	木	先勝		十七日	つちのえ

{ あいさつ }

- 仲秋の候
- 霜降の候
- 紅葉の候
- 秋色日毎に深まり



YouTube
浄土宗公式
チャンネル

大本山光明寺で行われたお十夜法要等を公開しています。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。



「無量寿経」に、「この世において10日10夜の間善行を行うことは、仏の国で1000年間善行をすることよりも尊い」と説かれていることに由来し、10日10夜にわたって念仏をとなえて、阿弥陀さまのお慈悲に感謝する法要です。今から5500年ほど前、京都の真如堂（天台宗）が始まりとされており、その後、大本山光明寺で行われ、今では浄土宗の大切な法要となっています。

◆ 十夜会

10月

かんづき
{ 神無月 }
(大)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	水	友引	奈良當麻寺奥院綴當麻曼陀羅特別公開(十日迄) 計量記念日、米穀年度始め、灯台記念日、自衛隊記念日 唐津くんち(四日迄)	旧九月十八日	みつのと ぬきのえ
二日	木	先負		十九日	ぬきのえ
三日	金	仏滅	文化の日、栃木福正寺西方の踊り念仏	廿一日	ひのえ とら
四日	土	大安		廿二日	ひのと
五日	日	赤口	下弦(一七時三七分)	廿三日	つちのえ たつ
六日	月	先勝		廿四日	みつのと
七日	火	友引		廿五日	かのえ うま
八日	水	先負	立冬(一時三六分)、世界都市計画の日、ふいご祭 秋の全国火災予防運動(十五日迄) 太陽暦採用記念日	廿六日	かのと ひつし
九日	木	仏滅		廿七日	みつのと さる
十日	金	大安	一の酉、世界平和記念日	廿八日	みつのと とり
十一日	土	赤口		廿九日	きのえ いぬ
十二日	日	先勝		旧十月二日	きのと み
十三日	月	仏滅	朔(一八時二七分)、旧亥の子餅、炉開き	三日	ひのえ うし
十四日	火	大安		四日	つちのえ とら
十五日	水	赤口	七五三	五日	つちのと う
十六日	木	先勝		六日	かのえ たつ
十七日	金	友引	山形佛向寺一向上人開山忌踊躍念仏	七日	かのと み
十八日	土	先負		八日	みつのと うま
十九日	日	仏滅	一茶忌	九日	ひつし ひつし
廿一日	火	赤口	京都東本願寺報恩講	十日	さる さる
廿二日	水	先勝	小雪(二三時〇三分)、とおかちゃん(寺大梵焚き)	十一日	きのと とり
廿三日	木	友引	勤労感謝の日、二の酉	十二日	ひのえ いぬ
廿四日	金	先負		十三日	ひのと
廿五日	土	仏滅	世界平和念仏の日	十四日	つちのえ ね
廿六日	日	大安		十五日	つちのと うし
廿七日	月	赤口	望(一八時一六分)	十六日	かのえ とら
廿八日	火	先勝		十七日	かのと う
廿九日	水	友引		十八日	みつのと たつ
卅日	木	先負			

- { あいさつ }
- 立冬の候
 - 向寒のみぎり
 - 菊花の候
 - 落葉舞い散る季節

子どもの成長儀礼 (WEBサイト)

お寺での成長祝いは、仏縁を結ぶことにもつながります。大本山善光寺大本願では、七五三のほか十三参りの祈願も行っていきます。



一般的には11月15日に、三歳、五歳、七歳の子どもに行う成長を祝う儀礼です。江戸時代から行われ始め、その由来は、三歳は髪置、五歳は袴着、七歳は帯解とされ、髪型や服装を変えることによって、子どもの成長を祝い、神仏に感謝し祈りを捧げる機会となっています。参拝や記念撮影に用いられる「千歳詣」も、健やかな成長と長寿の願いを込めたものです。

七五三

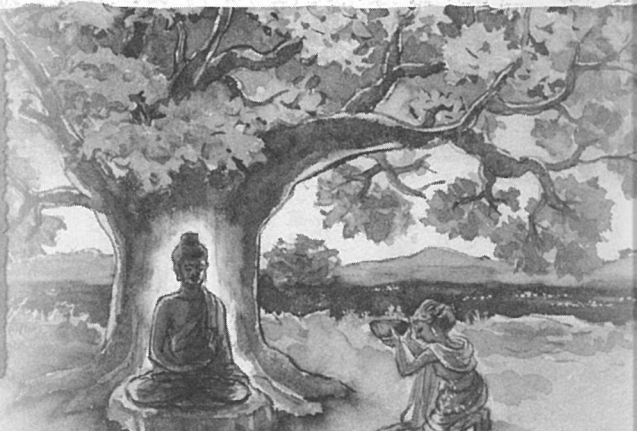
11月

しもつき { 霜月 } (小)

日	七曜	六曜	年中行事	旧暦	干支
一日	金	仏滅	映画の日	旧十月十九日	みつのと
二日	土	大安	旧えびす講、旧誓文払	廿一日	うま
三日	日	赤口	人権週間(十日迄)	廿二日	きのと
四日	月	先勝	世界平和念仏の日	廿三日	ひのと
五日	火	友引	下弦(一四時、四九分)	廿四日	と
六日	水	先負	大雪(一八時、三十分)	廿五日	つちのえ
七日	木	仏滅	成道会 こと納め、針供養、納めの薬師	廿六日	かのと
八日	金	大安	皇后御誕生日、鳴滝了徳寺大根焚き	廿七日	かのと
九日	土	赤口	納めの金比羅	廿八日	うし
十日	日	先勝	年賀郵便特別扱始め	廿九日	みつのと
十一日	月	友引	朔(八時、三十分)	三十日	うま
十二日	火	先負	浅草観音歳の市(羽子板市)	十一月一日	きのと
十三日	水	大安	納めの観音	十一月二日	み
十四日	木	赤口	納めの大師	十一月三日	きのと
十五日	金	先勝	納めの地蔵	十一月四日	うま
十六日	土	友引	世界平和念仏の日、終い天神、蕪村忌	十一月五日	つちのえ
十七日	日	先負	納めの不動、官庁御用納め	十一月六日	かのと
十八日	月	大安	取引所納会	十一月七日	と
十九日	火	赤口	納めの不動、官庁御用納め	十一月八日	かのと
二十日	水	先勝	望(九時、三十分)	十一月九日	つちのえ
二十一日	木	友引	望(九時、三十分)	十一月十日	かのと
二十二日	金	先負	望(九時、三十分)	十一月十一日	と
二十三日	土	仏滅	望(九時、三十分)	十一月十二日	かのと
二十四日	日	赤口	望(九時、三十分)	十一月十三日	つちのえ
二十五日	月	大安	望(九時、三十分)	十一月十四日	かのと
二十六日	火	赤口	望(九時、三十分)	十一月十五日	と
二十七日	水	先勝	望(九時、三十分)	十一月十六日	かのと
二十八日	木	友引	望(九時、三十分)	十一月十七日	つちのえ
二十九年	金	先負	望(九時、三十分)	十一月十八日	かのと
三十日	土	仏滅	望(九時、三十分)	十一月十九日	と
三十一日	日	赤口	望(九時、三十分)	十一月二十日	かのと

{ あいさつ }

- 初冬の候
- 冬至の候
- 師走の候
- 年内余日少なくなり



成道会

人間として生まれ、悩み続けたお釈迦さまが「おさとり」を開かれた日です。
人の世が苦に満ちていることを見抜き、出家し、肉体を痛めつける苦行をしましたが、解決できないと判断し中止したのち、大きな菩提樹の下で瞑想を始め、ついに「おさとり」を開かれ、仏陀とられました。
この尊い日を記念して、各寺院では「おさとり」を讃える法要を営みます。

12月

{ 師走 }
(大)